

中学校・義務教育学校卒業生へのメッセージ

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、入学時と比べようのないほど心身ともに立派に成長されました。そして、義務教育を終え、自ら決めた進路に向かって第一歩を踏み出そうとしています。皆さんは、自分の将来に向けて、どのような決意や夢を持っていますか。大切なことは「前向きに挑戦する心」を持ち続けることです。

さて、昨年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、学習活動や学校行事が予定どおりできない事態が発生しました。リーダーシップを発揮する機会が減り、また、楽しみにしていた修学旅行の行き先が変わり、「どうして私たちの時に…」と愚痴をこぼしたこともあったでしょう。しかし、このような時だからこそ、今まで当たり前であったことがとても大切なことであったと気づいたのではないのでしょうか。毎日の手洗い、マスクの着用が習慣となり、命を守る術を身につけ、忍耐力と思いやりが育まれてきたのではないのでしょうか。コロナ禍での生活が新しい生活様式となり、皆さんの成長につながっています。

この1年は、コロナ収束が予測困難で我慢を強いられましたが、私たちに希望を与えてくれる出来事もありました。それは、小惑星探査機「はやぶさ2」が、3億キロメートル彼方の小惑星「リュウグウ」を探査し、太陽系の歴史や地球における生命の起源に迫る原材料物質を地球に持ち帰ってきたという世界初の偉業を成し遂げたことです。「はやぶさ2」の偉業は、私たちの未来に示唆を与えています。

このプロジェクト進行の中で、チームが危機に陥ったのは、「リュウグウ」への1回目の着陸が成功し地表物質を採取することができた後、2回目の着陸に挑み、地下物質を採取する計画を実行するかどうか、意見が割れたことです。1回目の着陸で採取したサンプルがあるのに、わざわざ危険をおかして2回目の着陸に挑戦する必要があるのかと。2回目の着陸にチャレンジできたのは、一つに、反対者へ説得を行い、安全性と失敗した場合の安全策を説明し、全員の心が一つになって助け合いながら取り組めたからです。二つ目は、「この機会を逃せば、これから何十年先地下物質を得ることはできない。挑戦しないのは宇宙科学者のあるべき姿ではない」という強い意思です。この結果、世界で初めて小惑星の地下物質を採取する偉業につながったのです。

今は人類始まって以来の苦難の中にいますが、「はやぶさ2」の偉業に学び、明るい未来を信じて、卒業生一人一人が励まし合い、助け合いながら、前向きに挑戦する人になってください。

令和3年3月10日 養父市教育委員会